

長江の汚染で、カワイルカがついに絶滅？

Dolphin feared extinct in polluted Yangtze

中国の河川では魚の乱獲と船の騒音が水生哺乳類を死に追いやっている。

doi:10.1038/news061211-13/14 December 2006

Michael Hopkin

中国の長江（揚子江）では人間の活動が原因でイルカが絶滅しようとしており、河川での漁業を規制しなければほかの動物種も同じ運命をたどることになる、と自然保護活動家たちが警告している。

中国で実地調査を行った科学者グループは2006年末、長江にすむ淡水生のヨウスコウカワイルカ（通称バイジー、*Lipotes vexillifer*）が、「機能的に絶滅した」と宣言すべき状態であることを明らかにした。これは、たとえわずかな個体が生存していたとしても種を存続させるには数が足りないことを意味する。このカワイルカはほかの水域には生息しておらず、人間が絶滅に追い込んだ初めてのクジラ目動物となることは必至である。

「彼らを救える見込みはない」とバイジー基金会（Baiji.org foundation、長江の生物保全に携わる専門家のネットワーク組織）の最高責任者、August Pfluger は話す。基金会は6週間にわたって長江で調査を実施したが、カワイルカを1頭も発見することができなかった。この結果は基金会にとって衝撃的であった。2006年3月に行った短期の調

査でもカワイルカ生息の証拠は発見されなかったが、まだ100頭程度は生息しているものとみているのである。

種の絶滅を正式に宣言できるのは国際自然保護連合のみであり、その宣言が発せられるのは数年に及ぶ調査で当該種が発見されなかった場合である。「十分なデータはない」と、世界自然保護基金（WWF、英国ゴダルミン）の淡水プログラムを取りしきる Rob Shore は話す。「しかし、生存個体数が限りなくゼロに近いということはわかっている」。

スナメリにも絶滅の危機が

長江ではさらにスナメリ（*Neophocaena phocaenoides*）という哺乳類も同じ運命をたどりつつある、と Pfluger は語る。「1980年代にはそれこそ無数にいたのが、1990年代の調査では約6000頭となり、現在は約400頭と、憂慮すべきスピードで減少している」。

水生生物研究所（中国、武漢）で淡水クジラ類の研究を率いる王丁も同じ見方をしている。「すぐに対策をとらなければ、長江のスナメリはバイジーの二の舞になってしまう」と王はいう。

Pfluger は、長江ではそれ以外にチョウザメやオオサンショウウオなどの大型動物種も人間の活動のために減りつつある、とも語る。「もう長江にはチョウザメが繁殖できる場所がない」というのだ。

長江の動物種の減少について、自然保護活動家は乱獲に原因があるとしている。カワイルカはほとんど目が見えず餌探しをソナーに頼るため、おびただしい数の漁船が発する雑音のせいで衝突の危険が生じる。「長江の自然はもはや失われ、何千もの船が行き交うただの水路になってしまった」と Pfluger は話す。

Pfluger は、2007年に中国の複数の漁業組合と会合をもつ予定であり、あらゆるカワイルカ目撃情報の提供を求めるとともに、漁業権制度の取り締まり強化の重要性を訴えようとしている。長江では現在、漁業権をもたない漁船が何千隻も操業し、希少種ばかりでなく漁業資源までもが損なわれている。

疎開

終着点の上海まで長さ1750キロメートルに及ぶ長江の流域は、地球上で最も人口密度の高い地域であり、河岸にはおよそ4億人が居住している。「生息環境の悪化は深刻で、大型動物の存続は極めてむずかしい」と Shore は語る。

短期的には、生き残っているイルカ種などの哺乳動物を長江から湖へ移して、長江が元に戻るまでそこで保護すべきである、というのが Shore の考えである。「これは根本策ではないが、やらざるをえないかもしれない」と Shore は話す。

Pfluger は、異論も多い三峡ダム建設がカワイルカの減少に関係しているとする見方には確かな証拠がないと語る。しかし、長江下流の水位はこの建設計画のせいで約2メートルも下がり、生態系を支えるプランクトンが減ってしまった、とも話す。

概して Pfluger は Shore よりも悲観的である。「ものすごく幸運なことに、私は長江で生きているバイジーを見ることができた」と Pfluger は話す。1997年の調査では13頭が見つかったのである。「現在この問題はあまりに大きくなりすぎて、いっこうに出口がみえてこないの、私は軽い絶望感を抱いている」。



事実上絶滅したと考えられているヨウスコウカワイルカ。